

白い森芸術祭

芸能まつり

～3年ぶりの開催 新たな力とともに～

新型コロナウイルス感染症の影響により、昨年、一昨年と開催を見合わせていた「白い森芸術祭 芸能まつり」が11月3日文化の日に小国小学校アリーナで開催されました。

毎回プログラムを盛り上げてきた団体等に加え、新たな参加団体等、たくさんのかたが日頃の練習の成果を發揮しました。また、古田歌舞伎公演も芸能まつり内で披露され、会場に詰めかけた多くの観客を楽しませました。今月は、3年ぶりの開催を果たした芸能まつりを紹介し、町民の活力となるイベントの力について考えます。

芸能まつり

「芸能まつり」は、平成6年11月に「白い森の里おぐに芸能まつり」として初めて開催されました。当時は町民総合体育館を会場に、町内の芸能6団体が合同で初めて公演する催しでした。歌、踊り、詩吟、太鼓や三味線・大正琴といったバラエティに富んだ舞台を披露し、詰めかけた観客に楽しいひとときを与えていました。

それから、約30年が経ち、現在は「白い森芸術祭(主催) 小国町文化協会(安部春美会



研究会によるおぐに音頭では、
した各団体のメンバーが踊り、



フラダンス

良絃会



出演団体（出演順）

古田歌舞伎保存会、おぐに白い森PEAKキッズダンス、
小国町民謡研究会、あらかわ歌謡クラブ、
むつみカラオケ愛好会、良絃会、
ペントニック・ハーモニカ倶楽部、
よさこいチームおぐに舞波（ぶな）、峰鷺会、
snowcherryおぐにスポーツクラブYuiキッズダンス、
鼓友塾、フラダンス、おぐに相撲甚句会

プログラムのトリを務めた、小国町民謡
歌や演奏に合わせて、芸能まつりに参加
舞台の最後を大いに盛り上げました

（長）と名称を変え、書道、華道、俳句、陶芸、押し花、手芸、写真などの文化団体や一般のかた、放課後子ども教室で制作した作品などを展示する「作品展示会（ショッピングセンターアスモで1月29日まで開催中）」と合わせて開催されています。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により3年ぶりの開催となった今年度の芸能まつりでは、13団体31演目が披露されました。

これまで、プログラムを盛り上げてきた各団体等のほか、新たな団体等が加わり、多彩な舞台となりました。その結果、観客にも変化が見られました。出演団体に若い世代が増えたことにより、その友人や家族などが多数訪れ、観客席には若いかたや子連れのかたも多かったです。

演者も観客も新たな形が期待できる芸能まつりとして開催されたといえます。



小国町民謡研究会



鼓友塾



あらかわ歌謡クラブ

継承していくために

古田芝居の発祥について明確な資料はありませんが、江戸時代の末期（1845～1859年）と推測されています（『小国の文化財』小国町誌編集委員会編1994年）。その後、昭和33年公演を最後に一時途絶えましたが、昭和61年に地域おこしの一環として復興公演をしました。また、郷土芸能の学習のために沖庭小学校では閉校する平成25年まで「沖小歌舞伎」と同時公演されてきました。閉校後は、白い森芸術祭の一環として小国小学校



▲演技指導に力が入る安部隆利さん

を会場に公演され、町民に広く親しまれてきたのが古田歌舞伎です。

コロナ禍により公演開催を見合わせてきた古田歌舞伎を芸能まつり内で披露することについて、古田歌舞伎公演座長を務めた安部隆利さん（古田）は「コロナ禍で役者が3年演技できず、錆びついてしまった。古田歌舞伎の継承には、披露する場が必要だと思っています」と続けることの意義を話しました。

本公演の「白波五人男」の演者の一人である木村結衣さん（あけぼの）に公演終了後に話を聞いたところ「前回



▲弁天小僧を演じる木村結衣さん

の公演から間が空いたことや公演までの準備期間が少ないこと、新たな役柄ということもあり、不安が大きかったです。今回、芸能まつり内で披露できたことで、歌舞伎に興味がないかたにも見てもらい、魅力が伝わったと思います。久しぶりに演じて「楽しかったー！終わったー！」という達成感でいっぱいです。」と笑顔で応えてくださいました。



▲芸能まつりオープニングを盛り上げる「白波五人男」

届けたい思い

今回の芸能まつりには、新たな団体の参加が多くありました。本町で育ち現在は米沢市で生活する加藤里香さんが12年ぶりに再結成した、よさこいチームおぐに舞波もその一つです。再結成の理由を加藤さんはこう話します。「コロナ禍で落ち込みがちな友人達をよさこいで元気づけたいと思い、当時の仲間へ声をかけました。」その呼びかけに応じた仲間が町内外から集まりました。また、その熱意に賛同した町民も新たに加わり、当日は迫力のある踊りがステージで披露されました。



◀よさこい踊りを披露するおぐに舞波の加藤里香さん(写真右)

観客の声

コロナ禍の影響で、本町のイベントも開催を見合わせているものも多くあります。こうした中、開催された「芸能まつり」には、待ちわびた町民の楽しむ姿が多くみられました。



【大内康平さん家族】

職場の異動で5、6年ぶりに町に戻ってきました。

歌舞伎に出演する弟を応援にきましたが、凄い迫力があってよかったです。

【西原初子さん・渡邊一恵さん】

久しぶりの開催でしたが、カラオケだけでなく、若いかたの発表も多くて楽しくかったです。



▲歌唱を披露した渡部さだ子さん（写真右）を労う西原初子さんと渡邊一恵さん（左から）

【渡部さだ子さん・あらかわ歌謡クラブで出演】

久しぶりのステージで緊張したけど、やっぱり楽しいですね。

踊り手も観客も一つに

3年ぶりの芸能まつり、閉幕後に帰る観客からは「良かったね」「歌舞伎も凄かった」といった声が聞こえ、多くのかたがたの笑顔が見られました。

ステージ前に席を確保したかたは朝から訪れ、閉演まで歓声をあげて楽しまれていました。また、10時から16時までと公演時間が長時間におよぶため、昼食をとれなかったかたの中には、公演終了後、町内の飲食店で遅い昼食をとり、芸能まつりの余韻に浸っていたかたもいたようです。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、こうしたイベント自体が中止になることが多い近年です。若い年代のかたは、町内にイベントがなければ、町外に出かけて楽しむこともできます。ところが年配のかたの中には、町外



▲公演終了後満足気に帰る観客たち

に出かけられず、娯楽を楽しむことができないかたも多いのではないのでしょうか。そうしたかたにも楽しんでいただくことや、本町に数多くいる芸達者なかたの発表の場、そうしたかたを一堂に観覧することができる機会が重要であることが感じられました。

それが、町民を元気づけ「みんながわくわくする町」に繋がっていくものと改めて認識できる芸能まつりの開催となりました。